

情報通信審議会情報通信技術分科会 ITU 部会
周波数管理・作業計画委員会第 4 回会合議事概要

1 開催日時

平成 24 年 5 月 14 日（月）15：00～17：00

2 場所

総務省（合同庁舎 2 号館）8 階 第 4 特別会議室

3 出席者（敬称略）

・専門委員：

小林 哲、門脇 直人、阿部 宗男、岩間 美樹、小川 博世、田村 知子、中川 篤、西田 幸博、橋本 明、正村 達郎、矢野 由紀子、吉田 英邦

・関係者：

竇迫 巖、北沢 弘則、碓 琢己、東 充宏、博多 宣雄、中村 隆治、浜名 康広、三留 隆宏、塚本 尚樹、内野 政治、上土井 大介、立澤 加一、中村 勝英、宮寺 好男、河野 健司、高尾 浩平、井上 浩樹、見上 英樹、石田 和人、庄木 裕樹

・事務局：

山口 典史、遠藤 鉄裕、奥川 雄士、尾崎 敦子、菅田 洋一、田中 純一、中尾 亨、佐々木 亮

4 議事

1 SG1、WP1A、WP1B 及び WP1C 会合（2012 年 6 月）の結果について

2 SG1、WP1A、WP1B 及び WP1C 会合への対応について

(1) 対処方針（案）の審議

(2) 提出予定日本寄与文書（案）の審議

(3) 外国入力文書に関する審議

3 その他

5 議事概要

議事に先立って、主査より本会議では、周波数管理・作業計画委員会の構成員だけでなく、関係者にも発言を認める旨の発言があった。

また、主査より、本会合の議事録について、今後はメールの照会を以て承認を行うこととする提案がなされ、委員の了承を得た。

(1) 前回議事概要

資料 4-1 の第 2 回委員会の議事概要について、コメントがある場合は 5 月 21 日（火）までに事務局に提出することとされた。

(2) SG1、WP1A、WP1B 及び WP1C 会合（2012 年 6 月）の結果について事務局より、既に昨年承認済みである旨報告された。

(3) SG1 関連会合の概要について

資料 4-6 の SG1、WP1A、WP1B 及び WP1C 会合の概要について、特にコメント等はなかった。

(4) SG1 関連会合への対処について（対処方針案）

SG1 関連会合の対処方針案の全体について、資料 4-7 に基づき、個別事項について、資料 4-7-1 から 4-7-5 に基づき、事務局よりそれぞれ説明が行われ、特にコメント等はなかった。

(5) SG1 関連会合への対処について（日本寄与文書）

SG1 関連会合の日本寄与文書案の全体について、資料 4-8 に基づき、事務局より説明が行われ、個別事項について、資料 4-8-1 及び 4-8-2 に基づき、関係者より、4-8-3 から 4-8-5 に基づき、事務局よりそれぞれ説明が行われた。質疑応答は下記のとおり。

■4-8-1 及び 4-8-2 について

（専門委員）昨年審議されたかもしれないが、勧告案を再提出することに関しては、異論がない。なお、参照を行っている他の SG の Question について、SG3 の Question 番号は記載されている 238 ではなく、228 が正しい。また、SG7 の Question235 は削除されていることを踏まえ、寄与文書の記載の方法を考えてほしい。

（関係者）了解。

（専門委員）4-8-2 の文書について、対象とするのは 1000GHz までの周波数帯か？

（関係者）電波法上で言うところのテラヘルツ帯として 3000GHz までを対象としたレポートとしている。

（専門委員）4-8-1 では研究対象を 1000GHz までとしているが、4-8-2 との整合性はあるのか。レポートの対象が 3000GHz までならば、Question の対象も 3000GHz までとしてはどうか。

（関係者）研究をする上で、1000GHz までと区切るのは難しい。WRC でも 1000GHz で区切っていたため、それを参照した。他方で、1000GHz より上の周波数帯の実用は難しいことから、Question の対象は 1000GHz 以下としている。

（専門委員）現在は、ITU-R において Question のステータスが高くないので Question に厳密に基づいていなくても問題はないが、Question とレポートの整合性については、今後質問が出る可能性があるので、力点を明らかにすべき。

(専門委員) 本件は他の SG にまたがる内容であるため、リエゾン等を利用して広く他の SG と連携して検討を進めていくのが良い。このことから、Question のタイトルにアスタリスクをつけて、他の SG にも関連する旨を明確にし、各 SG の注意を引きつけるように修正するのが良い。

(専門委員) 4-8-1 の寄与文書には、WP1A での過去の議論の経緯を書くべき。

(専門委員) 了解。

(専門委員) SG1 の所掌として、他の SG に先駆けて高周波数帯の利用に関する検討を行うことは理解するが、Decides 2 のシェアリングに関する研究は、時期尚早ではないか。

(専門委員) シェアリングについて、電波天文の立場を重視し過ぎると、新しいことができなくなるなど業務に支障をきたすおそれがあるのではないか。また、シェアリング以外の本体の検討に悪影響があるのではないか。

(関係者) WP7D で電波天文が出ているため、能動業務に支障は出ないはず。

(専門委員) 'Sharing criteria'等を議論するわけではないので、シェアリングに関する研究は問題ないと思われる。

(専門委員) RR5.565 に基づいた Question であることを明確にするためにも、シェアリングに関する研究は残した方がよい。

(専門委員) 必要性があれば、反対するものではない。

(専門委員) 4-8-1 については、そのままシェアリングの記載は維持することで了承。表書きに経緯を記載、considering d)の Question 235 が削除された経緯を確認して、再検討。considering e)の Question 238 を 228 に修正。以上の修正により、承認する。

4-8-2 については、皆様の業務に支障をきたすおそれがないので、承認する。

■4-8-3 について

(関係者) ビジュアルシステムについて、高さのデータのみ記載しており、平面の緯度経度のデータはないようだが、問題はないのか。具体的には、4.2 の箇所にレスキューでの利用を想定していることが記載されているが、そうであれば、平面の位置データも併せて計測出来なければならないと考える。現在の寄与文書内容では、紹介している技術と想定している用途に整合性がなく、誤解を生む恐れがあるのではないか。

(事務局) 問題ない。4.2 の用途については、今後の応用ということを寄与文書紹介の際に伝える。既存のものでは高さデータを計測出来ないことが問題とされていることから、3次元が見れることを強調するため、高さのデータを入力した。まず、方探システムで大まかな緯度経度を探知し、補足的に高さを取り入れることで、より正確性を増す運用となるのである。

(事務局) この点については、Introduction に記載している。

(専門委員) Proposal に Annex と記載があるが、ないので修正すべき。レポートを出すならば、その形式に修正すべき。Shall been の記載は should been に改めた方がよいのではないか。CCD カメラの記載も単にカメラとの記載でよいのではないか。

(専門委員) レポートの形式はこのままで構わないが、ITU-R の寄与文書のフォーマット、フォントに従うと共に、題名を修正いただきたい。この入力文書のベースとなる Question があれば、それに基づいている旨明記すべき。また、PDNR として入力してはいかがか。

(事務局) 将来の電波監視(Question 235/1)を想定しているが、議長と内々に相談しており、他国からの入力があれば新しい Question が設置される可能性もあるとのことを受けているため、両にらみ中である。なお、対象周波数については、700MHz から 6GHz を想定(携帯電話、無線 LAN を想定)しており、これについて「1 Introduction」に記載するか否かについては検討したい。

(専門委員) 最終的に、修正したものは、メールで検討したい。

■4-8-4 及び 4-8-5 について

(専門委員) texts はどういう意味か。勧告及びレポートを意味しているならば ITU-R text とすべき。

(事務局) 了解。

(専門委員) 4-8-4 の Annex1 と 4-8-5 は一つの寄与文書として入力できないのか。

(事務局) 可能ではあるが、既存文書を整理することが主要目的なので、構造と中身で分離して提案するため、分けている。また、中国及び韓国も WPT に関して入力を行う旨聞いていることから、他国の情報をマージするうえでは、現状のとおり文書 2 つに分けて入力することが良いと判断した。

(専門委員) どこが新規情報か。

(専門委員) 黄色マーカ一部分のみ。

(専門委員) 4-8-4 の Annex1 と 4-8-5 の 2 つを提出する理由を記載すべき。

(事務局) Proposal に記載する。

(専門委員) 2 つの文書を相互参照できるようにする。

(専門委員) 'Not via Radio Frequency Beam' という用語は既存のものか。既存のものでないならば、よりわかりやすい表現に変更すべき。

(専門委員) 'Via Radio Frequency Beam' は既存の用語としてある。

(関係者) 新しい技術であり、従来の定義で表せない部分が多く表現が難しい。

(専門委員) Annex のタイトルについて、SM. [WPT-1] 及び SM. [WPT-2] とするのではなく、例えば SM. [WPT-Non beam] 及び SM. [WPT- Beam] とした方が分かりやすい。

(専門委員) タイトルの修正、text に ITU-R の追加、Proposal で 4-8-4 と 4-8-5 を相互参照できるようにする、以上の修正により承認する。

(6) SG1 関連会合への対応について (外国寄与文書)

外国寄与文書につき、今後対応が必要なものは、審議表を作って、ご検討いただきたい旨事務局より周知が行われた。質疑応答は下記のとおり。

(専門委員) SG6 から WP1A に対し、日本主導でリエゾン文書 1A-53,54 が発出された。WP1A で適切に対処されたい。

(専門委員) 53、54 については、審議表を作って検討する。中には WRC マターもあるので注意されたい。総務省側作業でよいか。

(事務局) 了解。

(7) その他について

今後の扱いについて、事務局より説明が行われた。本日のコメントを受けて寄与文書案等を修正する必要があるものについては、5月17日(金)12時までに、修正版を事務局に送付することとされた。また、下記のとおり全体をとおしての意見があった。

■全体を通しての意見について

(専門委員) 4-7-3 の 1. 経緯 (1) 議題設定の背景内において、議題 9.1.7 が設定されたのは WRC-12 ではなく CPM15-1 であるので、修正すべき。

(事務局) 了解。

(専門委員) 参考資料 3 は、JAPAN としての参加者であり、セクターメンバーとしての参加者は他にいないかも、との理解でよいか。

(事務局) よい。

(専門委員) 参考資料 3 の所属を電波産業会に変更いただきたい。

(専門委員) 冒頭、前回委員会の議事概要については承認しているが、今回の議事概要についてもメールで皆さんに展開する。

以上